

テック(Tech)系

コース名		専門人材特化型コース		
講座名		社会人向けサイバーセキュリティ人材育成講座(九州大学SECKUN)（共同事業）		
科目名		サイバーセキュリティ概論		
必修・選択		—	単位	—
概要・目的		情報セキュリティに関わる現実にある法的側面や個人情報の取扱などの課題を具体的に理解する事を目的とする。 まず。情報セキュリティに関する知識を学ぶ前提として、技術の利用に伴う法的責任や社会的影響を理解する。ここでは、実際に発生した刑事事件や法的トラブルを題材に、どのような行為が処罰や損害賠償等の社会的制裁につながるかを学び、情報を扱う際に求められる倫理観や規範意識をもつ。 情報技術は、善にも悪にも使うことができる力であり、その使い方を誤れば重大な結果を招く。情報セキュリティ技術に触れる際には、単なる操作技術にとどまらず、その背景にある社会的ルールや責任を意識する必要がある。トラブルを未然に防ぐ判断力と姿勢は、実務において重要な基盤となる。 次に、安易なHowToや●●主義といった大風呂敷を広げた解釈論が多く出回っている法律分野について、ユーザーとして必要十分な文法や法律実務における使われ方に加え、法律家がいうところの事実認定の概要を理解することで、眼の前の問題が法律問題であるのか、法律問題であるとしてどのように分析すればよいか、調べるべき事実はどういったものかといったことを素早く見つけられるようにする。 また、「個人情報」「プライバシー（情報）」「セキュリティ」これら3つの概念はそれぞれが共有し合う部分と独立して存在している。これらが曖昧であるからこそ、このデータプライバシーに関わる実務が常に混乱しているのが現状である。ヤフー株式会社、株式会社メルカリで、セキュリティ、データプライバシー、プライバシーポリシーの構成・概念企画、運用などを行ってきた経験から、これらの3つの概念を明確に認識し、それぞれの実務が安全にかつ頭の整理がスッキリした状態で取り組めるようになることを目指す。 最後に、実際に稼働しているオンライン広告サービス（LINEヤフー広告）を例に取り、サービスの仕組みや取り扱われるパーソナルデータなどの重要情報に対する安全管理措置、さらにそれらの情報を活用する際の考え方を学ぶ。これを通じて、ITサービス企業が守るべき価値や、ビジネス・社会との関わりについて理解を深める。		
到達目標		情報セキュリティに関連する刑事責任および民事責任の基本的な枠組みを理解し、説明できる。 情報の各種取扱いについて、法的・倫理的な問題点を自ら検討し判断できる。 情報技術の利用場面において、社会的・法的なルールを踏まえた適切な行動を選択できる。 法律問題にあたった際に、一次文献である条文を読むことができる 条文を調べる前に、おそらく、何らかの法律があるはずだというセンスを磨くことができる 事実と評価を峻別することで、正しく議論を行う能力を養うことができる 「個人情報」「プライバシー（情報）」「セキュリティ」のそれぞれの違いが理解できる。 「法律上の個人情報」を認識し、また法律外の情報（非個人情報）であっても考える視点があることを認識し、対応するようにしていただくマインドセットを持つことができる。 日本の様々な事案を参考に、守るべき重要なポイントを認識できる 企業における情報保護や情報活用の基本的な考え方を理解し、ITサービスに対してそれを利用する側と、企画・開発・運用する側両方の視点で価値や課題を考察できる。		
授業方法		講義＋演習	実施形態	対面＋遠隔同期
評価方法		ポートフォリオの内容により理解度などを総合的に判断し成績評価を行う。		
授業項目	1	情報セキュリティとリーガルマインド 1（吉井）		
	2	情報セキュリティとリーガルマインド 2（吉井）		
	3	広告サービスと情報セキュリティ 1（原）		
	4	広告サービスと情報セキュリティ 2（原）		
	5	個人情報保護法とプライバシーの実務 1（中井）		
	6	個人情報保護法とプライバシーの実務 2（中井）		
	7	法制度調査手法 1（西尾）		
	8	法制度調査手法 2（西尾）		
使用教材				
特記事項		2025年度開講無し		